

# AQUA BOOK

2020  
SEASON.  
4

Vol.5



# 読者のページ

## ● 海外水ビジネス研究会のこと



W&E研究所代表  
（元厚生労働省水道課長）  
山村 尊房

厚生労働省を退職後、水（W）と環境（E）の頭文字を冠したW&E研究所を立ち上げてから、今年で10年が経ちました。その間、スリランカやインドネシア等海外のプロジェクトに参加し、世界水フォーラムでの発表、カンボジアでのユニークな活動が注目される名古屋環未来研究所の立ち上げにも参画しました。

4年前には、日本の海外水ビジネス（輸出、海外投資）を活性化するための具体的検討を行うため、どの組織からの制約もない私的な勉強会として「海外水ビジネス研究会」をスタートさせ、同研究会の事務局を務めています。この研究会は、海外水ビジネスに関心を持つ水の専門家と国際金融分野の経験者が集まっているのが特徴で、両分野の幅広い視点から課題解決方策の糸口を形成するための検討を重ねてきました。

これまでに、2018年6月に中間報告会、2019年7月に提言報告会を開催し、①基本的発想の転換、②資金調達

の見直し改革、③公民連携の推進、④貿易・海外投資・金融情報理解の体系化、⑤有望技術の精査普及、⑥評価判断基準の違いの認識、⑦その他（様々な機会の活用）を内容とする提言をとりまとめました。また、雑誌「水道公論」に研究会での活動の概要や海外水ビジネスに関係した金融・経済等の解説・動向シリーズやコラムを連載するなど精力的な活動を続けています。

現役の人たちは山積する現在の課題処理に日々忙しい時間を過ごしておられますが、水道の将来を考えた時、10年後、20年後、30年後に向けて業界全体としての活力を保持することが必要です。海外水ビジネスは、そのための人材育成や活動の幅を広げるために役立つ良いテーマではないかと考えるこの頃です。



提言報告会でプレゼンする筆者

## 編集後記

謹んで新春のお慶びを申し上げます。旧年中は「AQUA BOOK」をご愛読賜り、ありがとうございます。

「AQUA BOOK」は、2016年4月の創刊以来6年目を迎えました。この間、関係各位の並々ならぬご協力を頂きましたこと厚くお礼申し上げます。

昨年を振り返りますと、新型コロナウイルス感染症の影響により、私たちの生活はこれまでとは違う生活様式や考え方など大きな転換期を迎え、日本のみならず、世界の人々に暗い影を落とした1年であったかと思えます。

今もお終息の兆しが見えない現下において、「新しい生活様式」が当たり前の日常になりつつあるとはいえ、感染対策の長期化などにより、疲れを感じることも多いかと思えます。

今年の干支「丑」は、「我慢（耐える）」や「発展の前振れ（芽が出る）」を表す年になると言われているそうです。1日も早くコロナ禍が終息し、耐え忍ぶ年（前者）ではなく、活気に溢れた、新たな発展（後者）に繋がる年になることを願うばかりです。

## AQUA BOOK

第20号 2020 Vol.5 / SEASON.4

発行日：令和3年1月1日（季刊発行）

発行人：森脇 和義

発行所：アクアブック社

大阪市平野区瓜破南2-1-56

（株式会社タブチ内）

TEL: 06-7668-0324

編集：日本水道新聞社